

	各社の考え方
□ 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"><li>● 地球環境保全のために、拡大生産責任者としてサプライチェーン全体における環境負荷低減に対する取り組みが重要であることを認識している。</li><li>● ステークホルダーから、Scope3の情報開示を求められている。</li></ul>
□ 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"><li>● 環境報告書、Web等で、環境活動の結果として開示する。</li><li>● 該当する12のカテゴリに対して、一定期間(3年程度)は傾向を把握することとし、今後の環境負荷低減活動の施策立案に活用していく。</li></ul>
□ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>● カテゴリ11(製品の使用)では、毎年の排出量実績を削減していくことにより、ユーザーに環境性能をアピールできる。</li><li>● 環境部門が主体とはなるが、他部門との連携が深まり、一体となって環境負荷低減活動に取り組むことができる。</li></ul>
□ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"><li>● 社内の環境担当部門である環境センターが把握している情報と、関連部門(経理、物流等)、グループ会社、関連会社から入手した情報、公表されている環境情報とから、環境センターで算定している。</li><li>● 算定方法が複数種類あるものについては、どの方法が実態に近いのか、より正確なのか、について今後検討していく。</li></ul>

	各社の考え方
□ サプライチェーン排出量の削減に向けて	<ul style="list-style-type: none"><li>● カシオでは、コアコンピタンスである 小型・軽量・薄型・省電力技術を活かし、省資源・省エネ性能に優れた商品開発を実施している。なかでも環境性能が顕著なものは、「カシオグリーンスター商品」として認定している。また、この「カシオグリーンスター商品」の 販売比率を高めるため、具体的な数値を環境行動目標として設定し活動している。</li><li>● カシオでは、物流工程で発生するCO2の削減に取り組んでいる。国内外で物流拠点から取引先への直送により、輸送距離を短縮している。拠点間の輸送には環境負荷の小さい鉄道を積極的に利用し、モーダルシフトを推進している。デジタルカメラ、電子辞書等では梱包設計の最適化を図り、積載効率を改善し、輸送物量を削減している。</li><li>● カシオグループのみならず、サプライチェーンを含めたScope3 CO2排出量の削減活動が重要である。</li></ul>
□ サプライチェーン排出量算定の課題	<ul style="list-style-type: none"><li>● 算出精度の向上</li><li>● 算出に用いる係数等の見直しの時期</li><li>● 環境負荷削減のための具体的な施策の立案</li></ul>

カテゴリ		2013年度排出量		
		tCO2	比率	
Scope1		5,210	0.9%	
Scope2		33,169	6.0%	
Scope3		(Scope3は全体の93.1%)		Scope3のみ
		Scope3=512,368		
1	購入した製品・サービス	306,756	55.7%	59.9%
2	資本財	17,224	3.1%	3.4%
3	Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動	2,452	0.4%	0.5%
4	輸送、配送(上流)	74,132	13.5%	14.5%
5	事業から出る廃棄物	580	0.1%	0.1%
6	出張	1,198	0.2%	0.2%
7	従業員の通勤	1,253	0.2%	0.2%
8	リース資産(上流)	2,085	0.4%	0.4%
9	輸送、配送(下流)			
10	販売した製品の加工			
11	販売した製品の使用	76,091	13.8%	14.9%
12	販売した製品の廃棄	15,589	2.8%	3.0%
13	リース資産(下流)	8,035	1.5%	1.6%
14	フランチャイズ			
15	投資	6,973	1.3%	1.4%
		550,747	100.0%	100.0%

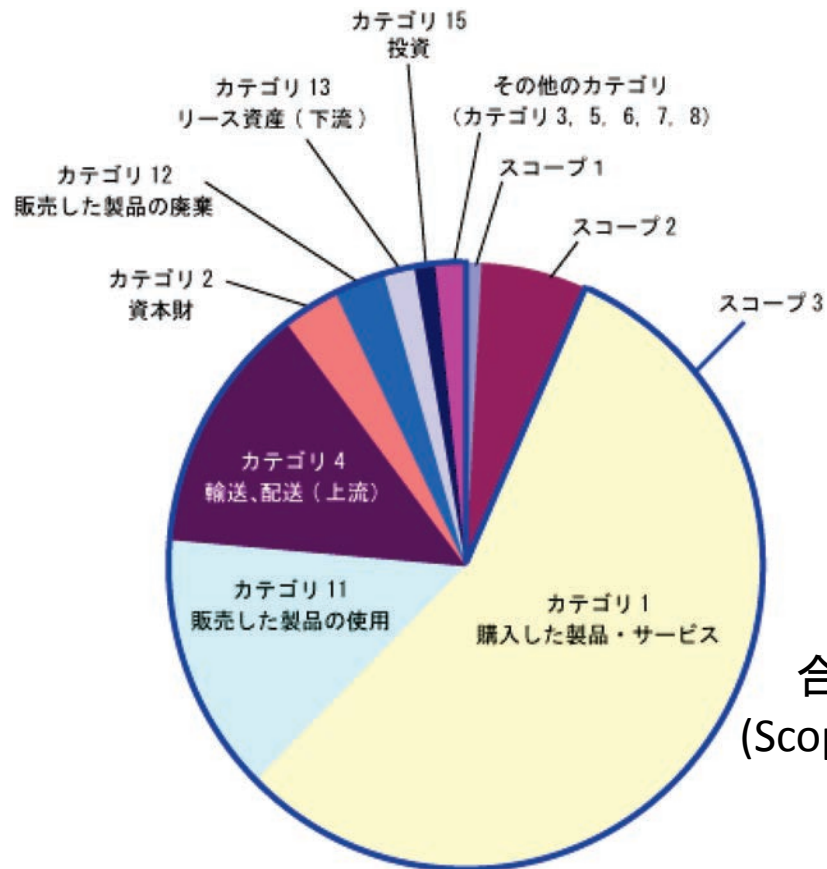
## スコープ3の算定方法

カテゴリ1	購入した物品・サービス	活動量:消耗品、原材料、梱包材の調達量、及び派遣社員の給料 原単位:項目ごとに購入量当たりの排出原単位を乗じて合算しています。 (排出原単位DB ver2.0、及びCFP COMMUNICATION PROGRAM DB ver1.01)
カテゴリ2	資本財	活動量:連結対象会社全体での設備投資金額 原単位:設備投資金額当たりの排出原単位を乗じて算出しています。(排出原単位DB ver2.0)
カテゴリ3	スコープ1, 2に含まれない燃料およびエネルギー活動	活動量:購入した電気、各種燃料の量 原単位:種別ごとの排出原単位を乗じて合算しています。(CFP COMMUNICATION PROGRAM DB ver1.01)
カテゴリ4	輸送、配送(上流)	活動量:国内、及び海外の出荷物流量 原単位:重量、輸送距離に輸送手段ごとの排出原単位を乗じたものを合算しています。 トラック:改良トンキロ法燃料使用原単位、鉄道/船舶/航空:従来トンキロ法CO <sub>2</sub> 排出原単位
カテゴリ5	事業から出る廃棄物	活動量:廃棄物種類別の排出量 原単位:種別ごとに排出原単位を乗じたものを合算しています。(排出原単位DB ver2.0)
カテゴリ6	出張	活動量:国内、海外の従業員数 原単位:従業員当たりの排出原単位 (排出原単位DB ver2.0)
カテゴリ7	従業員の通勤	活動量:従業員への交通費支給額 原単位:従業員の通勤形態から、電車と自動車の割合を推定し、それぞれの交通費支給額当たりの排出原単位を乗じたものを合算しています。(排出原単位DB ver2.0)
カテゴリ8	リース資産(上流)	活動量:国内に展開しているG-SHOCKストア、デジタル絵画等の販売売場 原単位:売場面積を合計し、売場面積当たりの排出原単位を乗じて算出しています。なお、営業日数は日割り計算しています(排出原単位DB ver2.0)
カテゴリ9	輸送、配送(下流)	カシオとして物流業を営んでいないため、算出していません。
カテゴリ10	販売した製品の加工	弊社グループ会社で名入れ等のサービス事業を行っているが、この事業活動に伴うCO <sub>2</sub> 等の排出については、スコープ1及びスコープ2に取り込んでいるため、算出していません。
カテゴリ11	販売した製品の使用	活動量:種別ごとの製品数 原単位:製品使用に於いては、製品ごとに(5年)による排出原単位を乗じて算出しています。 使用時間については、業界基準が定められている場合はそれに従い、定められていない場合は、独自に定めています。また、電力については、電気事業連合会の2012年度の使用端CO <sub>2</sub> 排出原単位を用いています。 電池交換を伴う製品については、その電池の製作のために排出されるCO <sub>2</sub> 量も加算しています。 (算出に当たっては、各電池の販売価格を調査したものを使用)
カテゴリ12	販売した製品の廃棄	活動量:製品本体、及び容器包装材の排出量 原単位:種別ごとの排出原単位を乗じたものを合算しています (排出原単位DB ver2.0)
カテゴリ13	リース資産(下流)	活動量:他の企業体にリースしている資産(建物)での排出量 原単位:リース先企業での排出量
カテゴリ14	フランチャイズ	カシオの事業形態が、フランチャイズ方式ではないため算出していません。
カテゴリ15	投資	活動量:持分法対象会社、及び特定年株式、みなし保有株式を保有する企業での排出量 原単位:投資先企業の排出量に、持分法比率、株式保有率をそれぞれ乗じたものを合算しています。

## サプライチェーンCO2排出量の全体像

□ 算定結果

3ページに記載した内容をグラフ化したものです。カテゴリ1～15がScope3の排出量になります。



合計 550,747 t-CO2  
(Scope3は512,368 t-CO2)

詳細につきましては、下記URLをご覧ください  
<http://www.casio.co.jp/csr/env/data/scope3/>